

■「タックル自慢、夏に鍛える－1部6校のLBたち」⑥

強く、早く、冷静に－室蘭工業大

8月8日午後4時、室蘭工業大グラウンドでブラックパンサーズの定期試験明けの練習が始まった。1週間の練習休みの分を取り返せとばかりに、各ポジションに分かれてプレーのタイミングやブロックのポイント、パスカバーの動きなどを入念に確認した。昨季、1部で10年ぶりの勝利を挙げ、1部復帰2年目の今季はさらに白星の上積みを狙う意気込みがグラウンドにみなぎった。

1年生5人を含む選手24人で臨む道学生選手権（秋季リーグ）。昨季に続いて攻守兼任の選手も多い。守備時間をいかに減らすかも勝敗の鍵を握る。4－3守備の中核となるLBは、RB兼任の友田悠斗（3年、岡山・玉島高）を中央に、RB兼任の富樫司（4年、札幌清田高）とTEと兼任の高部隆（2年、静岡・浜松開誠館高）が両サイドを固める。相手攻撃の状況に応じて4－4や5－2、パスカバーを強化するニッケル守備も駆使すると言う。

LBリーダーの友田は「冷静に頭を使い、コンビネーションで守りたい」と力を込める。「去年はタックルのヘルプがなかった」との反省からだ。「守りの厚みを付けて、総合力で守りたい」と言う。「ランプレーは全員で」「パスプレーはLBがどれだけカバーできるか」とポイント挙げた。6月30日の東京農業大とのオープン戦では友田のインターセプトもあり、15－6で逆転勝ちした。攻守ともに十分な手ごたえを得たゲームになった。

守備の司令塔のLBの信条は「強く、早く、冷静に、熱く」と友田。そして「どれだけ守備を短くできるかが失点のリスクを減らすことになる」と付け加える。昨季、北海道大戦でファンブルリターンTDを決めた富樫は「全部ロスタックルさせる。自分の役割をまっとうすれば勝てる。そして今年もボールに執着したい」と、ビッグプレーの再現をもくろむ。高部も「ファンブルリターンを狙う。ベストイレブンに選ばれる活躍でチームに貢献したい」と活躍を誓った。（塚田博）



「強く、早く、冷静に」と張り切る左から高部、友田、富樫のLB陣